

こうじ 工事の げんば 現場より



今はこんな様子だよ。



1月4週目

げっかでん ちゃかい しつないりよう おお ひ あ よ ばしょ たたみ
 月華殿は茶会などで室内利用をされることも多く、また日当たりが良い場所ではどうしても畳は
 れっか いた いちじる こうじ き おもてが じっし げっかでん
 劣化しやすく傷みが著しかったため、この工事を機に表替えを実施することになりました。月華殿の
 たたみ しんざい わら わらどこ じゅうりょうきゅう しゅしつ へ や たたみべり こもん こうらいべり
 畳は芯材が藁でできた「藁床」であるため重量級、また主室2部屋の畳縁は「小紋高麗縁」なので
 さぎょう たいへんて でんとう ぎじゅつ う つ しょくにん いちまいいちまいていねい おもてが もと いち
 作業には大変手がかかります。伝統の技術を受け継ぐ職人が、一枚一枚丁寧に表替えをし元の位置
 おさ あたら たたみおもて あらた しつない ぐさ よ かお ただよ
 に納めていきました。新しい畳表に改められた室内は、イ草の良い香りが漂っています。



おも かさば たたみ いちまいいちまいていねい はこ こ
 重たく嵩張る畳を一枚一枚丁寧に運び込みます。



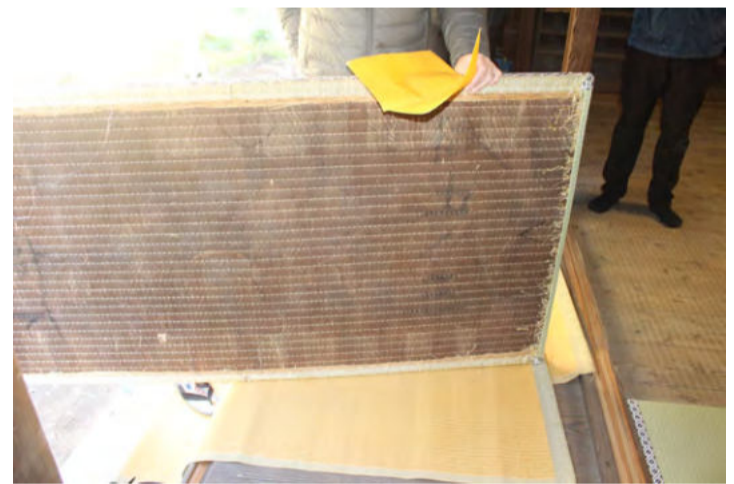
し つ じょうたい ゆか たか たたみ あつ さ
 敷き詰めた状態。床の高さや畳の厚さにはわずかな差があるの
 たたみ した かいもの たたみおもてしょうへん たか そろ
 で、畳の下に飼物（畳表の小片など）をいれ、高さを揃えます。



しんざい わら お かた つく わらどこ
 芯材は藁をきつく押し固めて作った「藁床」。
 かけぬ よ しゅほう つく こうきゅうひん
 「掛縫い」と呼ばれる手法で作られた高級品。



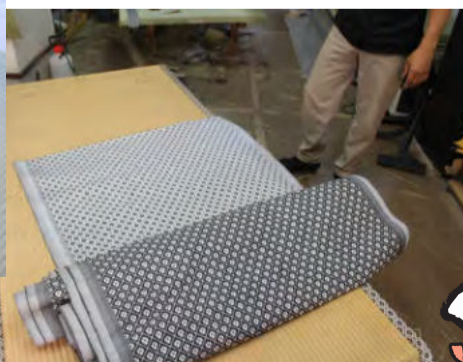
わらどこ さいりょう たたみおもて へり あらた あつ
 藁床は再利用し、畳表・縁は改めます。厚い
 わらどこ おお はり つか ぬ つ
 藁床に大きな針を使って縫い付けます。



どこ うら しゅろ じゅび し つ ぬ つ
 床の裏には棕櫚の樹皮を敷き詰め縫い付けてあり
 しゅろうら よ こうきゅう たたみ めじるし
 ます。「棕櫚裏」と呼ばれ、高級な畳の目印です。



こもん こうらいべり
 小紋高麗縁



となり あ たたみどうし もよう きれい つら うつく こもん こうらいべり
 隣り合う畳同士で模様が綺麗に連なるのが美しい「小紋高麗縁」。
 おお ぬの きりだしつく へり とんだり たたみ もん あ いち
 大きな布から切り出し作った縁を、隣の畳と紋があ合うよう位置を
 ちようせい (もんあ) よ (さちよう) 調整（「紋合わせ」と呼ばれる作業）しながら縫い付けました。
 たいへんて ま さぎょう
 大変手間のかかる作業です。

たたみおもて こくさん くまもとさん
 畳表は国産（熊本産）。
 くまもとさん あかし
 熊本産の証、「くまもん」
 がいたよ！

